

オノマトペの再認識と日本語教育への導入のあり方 — 日中対照研究に基づいて —

文学研究科国際言語教育専攻修士課程修了

蘇 匯 文

So Kanbun

【要約】

日本人は、日常生活で耳にした音や目にした物の様態などについて述べる際、「犬がワンワン吠えている」といったオノマトペを使用する。従来では、オノマトペは日本語教育において中国人日本語学習者にとって学習の必要の有無、もしくはどうしたら学習できるようになるかのような研究が多かったが、本研究では、指導者に日本語オノマトペ教育のヒントを与えることを目指し、オノマトペを再認識した上で、日本語教育への導入のあり方について考察することを目的とする。本論では、先行研究の不足しているところをふまえ、日本語のオノマトペの使用実態を教育面と日常生活面に分け、具体的な実例を挙げながら分析し、既存の調査研究に基づいて新たな使用実態調査を行う。さらに、中国語母語話者に対する日本語のオノマトペ教育の現状に基づいて習得困難の原因を明らかにし、中国人の日本語教師にアンケート調査を行い、日本語教育への導入のあり方について考察する。

目次

I 序論	381
第1章 序章	381
1.1 研究動機	381
1.2 研究目的	381
第2章 日本語のオノマトペに関する先行研究	381
2.1 オノマトペの定義	381
2.2 オノマトペの範囲	382
2.3 オノマトペの分類	382
2.4 オノマトペの特徴	382
2.4.1 語数の多さ	382
2.4.2 語形の変化の多さ	383
2.4.3 音には意味がある	383
2.5 先行研究の問題点	383
II 本論	384
第3章 日本語のオノマトペの使用実態	384

3.1 教育で取り上げられるオノマトペ	384
3.1.1 幼児教育	384
3.1.2 国語教育	384
3.2 日常生活で触れられるオノマトペ	385
3.2.1 マンガに見られるオノマトペ	385
3.2.2 コマーシャルに見られるオノマトペ	385
3.2.3 商品や商品の説明文に見られるオノマトペ	386
3.2.4 若者と文化	387
第4章 日本人を対象としたオノマトペの使用実態に関する調査	387
4.1 既存調査	387
4.2 本調査	388
4.2.1 調査目的	388
4.2.2 調査対象者	388
4.2.3 一部調査内容と結果	388
4.2.4 調査分析	390
第5章 中国語母語話者に対する日本語のオノマトペ教育	390
5.1 日本語のオノマトペ教育の現状	390
5.2 中国語母語話者に対する日本語のオノマトペ教育の現状	391
5.3 なぜ難しいと思われるか	392
5.3.1 従来に思われる原因	392
5.3.1.1 中国語の「象声詞」	392
5.3.1.2 語数	392
5.3.1.3 語形	393
5.3.1.4 意味・用法	393
5.3.2 筆者が思う原因	393
5.3.2.1 根本的な違い	394
5.3.2.2 教科書	394
5.3.2.3 日本語能力試験	395
5.3.2.4 対訳辞書	395
5.3.2.5 まとめ	396
5.3.3 中国人の日本語教師を対象としたオノマトペ教育に関するアンケート調査	396
5.4 日本語教育への導入のあり方	397
III 結論	399
第6章 まとめと今後の課題	399
6.1 まとめ	399
6.2 今後の課題	399
参考文献	400

I 序論

第1章 序章

1.1 研究動機

日本人は、日常生活で耳にした音や目にした物の様態などについて述べる時、「犬がワンワン吠えている」「星がピカピカと光っている」といった表現をよくする。ここで用いられる「ワンワン」や「ピカピカ」という単語は、「擬音語・擬態語」（以下、オノマトペ）とよばれるものである。上のどちらの文においても、日本人は容易に状況や場面をイメージすることができるだろう。しかし、こうしたオノマトペを聞き、脳内で情景を再生することは、筆者を含め、日本語学習者にとってはきわめて困難なことである。筆者は日本で生活をはじめて4年経った今でも、オノマトペに難しさを感じている。日本人のように自分の感覚を探り、体の感覚でオノマトペを理解できるようになりたいという思いを込め、オノマトペ研究を始めた。

1.2 研究目的

日本語は中国語よりオノマトペをはるかに豊富に持つ言語である。『中国語擬音語辞典』には約425語が収録されているに対し、小野（2007）の『擬音語・擬態語4500日本語オノマトペ辞典』には約4500語も記載されている¹。従来では、オノマトペは日本語教育において中国人日本語学習者にとって学習の必要の有無、もしくはどうしたら学習できるようになるかのような研究が多かった。しかし、指導者への示唆を与えたり、理解を促したりするのは極めて少なかった。

本研究では、指導者に日本語オノマトペ教育のヒントを与えることを目指し、オノマトペを再認識した上で、日本語教育への導入のあり方について考察することを目的とする。

第2章 日本語のオノマトペに関する先行研究

2.1 オノマトペの定義

「オノマトペ」の歴史は古く、日本最古の歴史書『古事記』には国を生み出そうと塩の海をかき回す様子を「こをろこをろ」というように表現した表記が残っている²。広辞苑第6版では、それぞれをこのように定義している。

- ・擬音語（実際の音をまねて言葉とした語。「さらさら」「ざあざあ」「わんわん」など。擬声語。広義には擬態語も含む。オノマトペア。オノマトペ。）
- ・擬態語（視覚・触覚など聴覚以外の感覚印象を言語音で表現した語。「にやにや」「ふらふら」「ゆっ

¹ 小野正弘（2007）『日本語オノマトペ辞典』小学館

² 日本語のオノマトペは古くからあり、日本最古の文献に属する『古事記』（712年成立）からにも見つけられる。小野正弘の『オノマトペラボ』では、『古事記』には国を生み出そうと塩の海を鉾でかき回したときに、「こをろこをろ」という音を立てたという描写があると述べている。

たり」の類。)

(広辞苑第6版 2008)

2.2 オノマトペの範囲

小野（2007）は日本語としてオノマトペと分類される基準となる点を3点挙げている³。

基準	例
①「人間の発声器官以外から出た音を表した言葉」	「トントン」【肩をたたく音】
②「人間の発声器官から出した音声で、一つ一つの音に分解できない音を表した言葉」	「ギャギャ」【多くの人間が話す音】
③「音のないもの、または聞こえないものにたいしてその状況にある音そのものが持つ感覚で表現した言葉」	「きらっ」【ものが光るさま】

2.3 オノマトペの分類

オノマトペ教育のなかで、オノマトペの分類は非常に重要なものとされている。浅野・金田一(1978)によると、擬音語・擬態語をその意味から大きく5つに分類し、それぞれを「擬声語」、「擬音語」、「擬態語」、「擬容語」、「擬情語」としている⁴。これ以外にも、次のように身体感覚によるオノマトペの分類の仕方がある。

仲村（2012）によると、オノマトペには、視聴覚に加えて嗅味触覚（皮膚感覚を含む）の基本五感覚に由来するものが多く含まれている⁵。このように、触覚を基盤にする擬態語がとくに多いという点、および五感というオノマトペのカテゴリーからみると、日本人が触覚や皮膚感覚などに感受性が鋭いということがわかる。

さらに、仲村（2012）は、擬態語・擬音語を五感別だけでなく、快不快感による分類もできると主張している⁶。このようにオノマトペは身体感覚や情感できめ細かに分けられ、様々な身体性や感覚と馴染み、表現することができる。

2.4 オノマトペの特徴

2.4.1 語数の多さ

日本語はオノマトペが豊富な言語であると言われている。山口（2003）の『暮らしのことば 擬音・擬

³ 小野正弘（2007）『擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典』小学館 p30

⁴ 浅野鶴子・金田一春彦（1978）『擬音語・擬態語辞典』角川書店 p7

⁵ 仲村哲明（2012）『オノマトペが属する五感の推定』人工知能学会論文誌

⁶ 仲村哲明（2012）『オノマトペが属する五感の推定』人工知能学会論文誌

態語辞典』の中では約 2000 語⁷、浅田・飛田（2002）の『現代擬音語擬態語用法辞典』の中では約 2200 語⁸、小野（2007）の『擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典』には約 4500 語も挙げられている。⁹なぜ日本語のオノマトペの語数はこのように多いのだろうか。小野（2009）によると「日本語には音節（一まとまりの音の一単位）が少ない」ためである¹⁰。オノマトペは数が非常に多く、日本語の表現においては欠かせない存在だとされている。

2.4.2 語形の変化の多さ

日向・笹目（1999）は浅野鶴子編（1978）『擬音語・擬態語辞典』に取り上げられている擬音語・擬態語の総数 1,647 語をその語形から分類し、それぞれがいくつずつあるのかを調査し、まとめている¹¹。その調査によると、(1) 繰り返し、(2) 促音「っ」、(3) 撥音「ん」、(4) 「り」である。このほかに、(5) 母音の長音化（「がーん」「ばちゃーん」など）はよく見られる語形である。つまり、オノマトペは語形の変化により、おなじような意味を持つオノマトペでも微妙な違いが生じる。この語形がオノマトペの語幹につくことによって、微妙な差異をわたしたちに与える印象を変化させていると見られる。この語形の変化のバリエーションの多さは日本語の会話に大きな役割を果たしており、会話の単調化を防ぐという役割もあるではないかと考えられる。

2.4.3 音には意味がある

数多いオノマトペ一つ一つを構成する体系では、どのような音がどのような意味にむすびついているのかを浜野（2014）が①子音②母音③そのほかの要素の三点にまとめている。本稿では、そのほかの要素を除き、子音と母音を分析する。浜野（2014）は CV タイプのオノマトペを例にし、子音と母音それぞれの意味や印象を表にまとめている¹²。

このように、子音さらに母音がそれぞれの音が与える印象がかけあわさって一つのオノマトペが成立していることがわかった。日本人はオノマトペの音の持つ印象によってイメージをより具体的に想像できると考えられる一方、日本語学習者は音から具体的なもののまでたどり着けないという現状がオノマトペ教育の必要性であり、オノマトペ教育の一難関だと考えられる。

2.5 先行研究の問題点

以上、日本語オノマトペに関する先行研究を概観し、オノマトペの定義、範囲、分類と特徴、それぞれのあらましを大まかにまとめてきた。ここまでの記述からも分かるように、オノマトペの統語的特徴や意

⁷ 山口仲美（2003）『暮らしのことば 擬音・擬態語辞典』講談社

⁸ 浅野鶴子・飛田良文（2002）『現代擬音語擬態語用法辞典』東京出版社

⁹ 小野正弘（2007）『擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典』小学館

¹⁰ 小野正弘（2009）『オノマトペがあるから日本語は楽しい：擬音語・擬態語の豊かな世界』平凡社 p54-55, 61

¹¹ 日向茂男・笹目実（1999）『語形から見た擬音語・擬態語 2』東京学芸大学紀要第 2 部門人文科学 50

¹² 浜野祥子（2014）『日本語のオノマトペ 音象徴と構造』くろしお出版 p22-46

味的特徴という言語学的な研究が数多く存在しているのに対し、オノマトペの身体的な特徴を深く分析する研究がまだ不足している。つまり、先行研究には、日本語母語話者がなにをどのようにオノマトペを活用しているかを、具体的に記述しているものがなかった。それは、オノマトペ教育が難しく感じる原因の1つでもある。そこで、日本語のオノマトペの使用実態（日本人が様々な分野でどのようにオノマトペを活用しているのか）を考察する必要がある。

II 本論

第3章 日本語のオノマトペの使用実態

3.1 教育で取り上げられるオノマトペ

3.1.1 幼児教育

日本語学習者と違い、日本語母語話者は幼い頃（言語発達の初級の段階）において家族や先生による読み聞かせを通して知識をインプットされる。その一番効果的に、リアルに子どもに提示されるのは幼児むけの歌と絵本と思われる。3.1.1では、『幼児の生活に見られるオノマトペ—音楽的意義と活用への一考察』（武田道子, 2015）¹³、『オノマトペ研究の射程—近づく音と意味』（篠原和子, 宇野良子編, 2013）¹⁴、『すき—13 谷川俊太郎詩集』（谷川俊太郎, 和田誠, 2006）¹⁵を元に考察する。

武田（2015）によると、幼児むけの歌にはオノマトペが多用されることにより、現実の音と重なって子ども達にも容易にイメージする事が出来る。また表現への意欲を喚起する働きも持っている。

篠原・宇野編, 深田著（2013）によると、絵本ではオノマトペが多く用いられる。日本語母語話者にとって、オノマトペは幼い頃から自身の感性的・身体的な経験との共起関係の中で獲得する言語表現である。そのため、たとえ子どもであっても、オノマトペを聞いただけで、ある特定の場面や状況、出来事などを想像することが可能である。また絵本の中のオノマトペは、絵や読み聞かせる大人の言葉と相互に関連し合いながら、子どもに絵本に描かれた仮想世界を想像させ、その中に入り込ませて、絵本の世界を追体験させることができると、深田（2013）は述べている。

3.1.2 国語教育

日本語学習者と違い、日本語母語話者は国語教育においてオノマトペを当たり前のように学習している。3.1.2では日本語母語話者がどのようなオノマトペを共通して知っているかを見ていく。岡谷（2015）は小学校一年生から六年生の国語教科書（①学校図書株式会社②教育出版株式会社③株式会社三省堂④東京書籍株式会社⑤光村図書出版株式会社）を調査対象資料にし、そのなかからもっとも使用される頻度の高いオノマトペを取り上げ、まとめている。

¹³ 武田道子（2015）「幼児の生活に見られるオノマトペ—音楽的意義と活用への一考察」『常葉大学保育学部紀要』

¹⁴ 深田智（2013）「絵本の中のオノマトペ」『オノマトペ研究の射程—近づく音と意味』ひつじ書房 p183-202

¹⁵ 谷川俊太郎・和田誠（2006）『すき—13 谷川俊太郎詩集』理論社 p70

岡谷 (2015) の調査結果によると、上記の全小学校国語教科書におけるオノマトペの異なり語数は1,087語、延べ語数は6,443語であった。また、学年別の平均延べ語数をみると、たとえ一年生でも約129.4語があったという。ここから、日本人は子供の頃からオノマトペを意識しながら勉強を重ねていることがわかる。

3.2 日常生活で触れられるオノマトペ

3.2.1 マンガに見られるオノマトペ

マンガは教科書や小説と違い、決められているコマの中で絵やセリフ、オノマトペを活用し、ストーリーを進めていくものである。3.2.1 では『オノマトペ研究の射程—近づく音と意味』（篠原和子、宇野良子編、2013）、『ピンポン/B-4』（松本大洋、2002）を元に考察する。

篠原、宇野編、夏目 (2013) によると、オノマトペは表現可能性と造形性が非常に大きく、ただの言語記号ではない。マンガにおけるオノマトペは表現される音や感情の大小・程度に対応し、形状の変化は音色や情緒的ニュアンス、スピード感などを共感的に表示するために工夫される。¹⁶具体例として、松本大洋が描いた大人気スポーツマンガ『ピンポン』¹⁷の対戦シーンを考察する。

図1 松本大洋 (2002) 『ピンポン/B-4』 小学館 p. 8-9

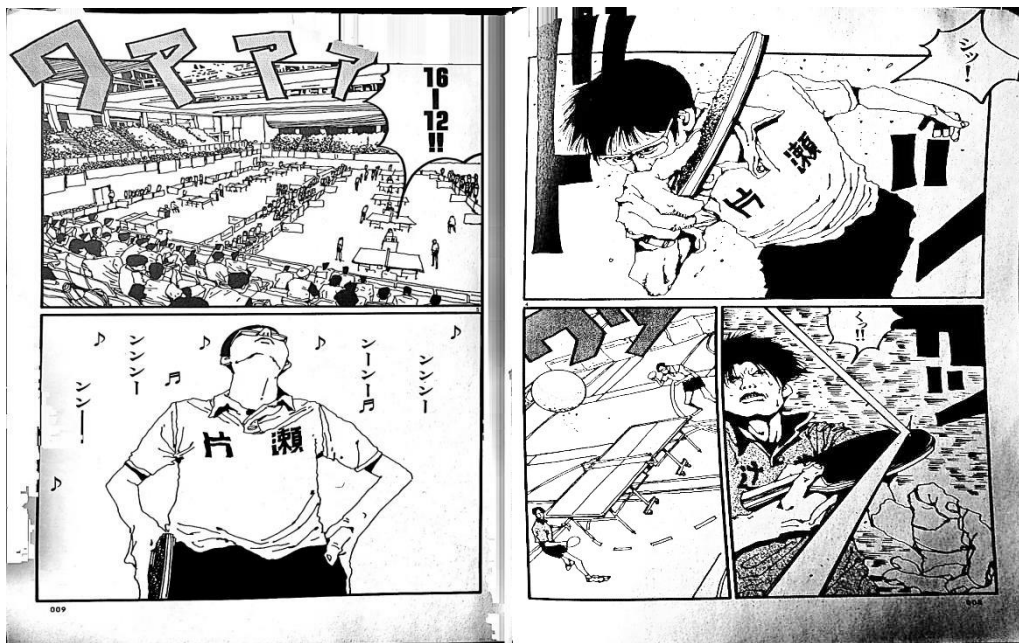


図1のように、作者は「ワァァァ」というオノマトペを用い、そこに大勢の人がいることや大歓声が上

¹⁶ 夏目房之介 (2013) 「マンガにおけるオノマトペ」『オノマトペ研究の射程—近づく音と意味』ひつじ書房 p217-245

¹⁷ 松本大洋 (2002) 『ピンポン/B-4』 小学館 p. 8-9

がっていることを表しているのがわかる。また、「シッ」と「ドッ」を用い、それぞれ体を動かすときのスピード感とボールをラケットで打ち返した瞬間の瞬発力のある動き（もしくは軽快に重たくない打撃音）を表しているのもわかる。このように、オノマトペは音声的にも視覚的にも漫画内で大きな役割を果たしているのは明らかであろう。

3.2.2 コマーシャルに見られるオノマトペ

コマーシャルにて使われているオノマトペはほとんど身体感覚を訴え、持ち前の親しみやすさと記憶に残りやすさで客の購買意欲を掻き立てる働きがある。

以下は大塚製薬の「オロナインH軟膏 50g」おうちチューブのCM詳細である。たった15秒のコマーシャルのなかで、「むんず」、「パッ」、「ぐつぐつ」、「ぽかぽか」、「ごしごし」、「ぐわっしゅ」、「いてっ」、「オロナイン」、「ぽか」、「ぬりぬり」、「トン」、「むんず」など計12個手仕事にまつわる単語を用い、冬に主婦が鍋を作り、皿洗いの時に乾燥にやられ、最後は「オロナイン」を塗って楽しく猫を撫でたというストーリーを完成している。「むんず」と野菜をつかみ、「ごしごし」と鍋についた焦げつきを落とす、どちらも臨場感やリアリティーが溢れている。



CM 引用元：大塚製薬公式YouTubeチャンネル https://youtu.be/2IBt_kUDjz4

3.2.3 商品や商品の説明文に見られるオノマトペ

3.2.3 では、日本人のオノマトペはどれほど商品や商品の説明文に使われているのか、『オノマトペ(擬音語擬態語)について』(田嶋香織 2006)と『食べ物を通じた日本語教育—体験を語る評価、オノマトペ、感覚表現—』(ポリー・ザトラウスキー、福留奈美、水藤新子、2018)¹⁸に基づいて考察する。

¹⁸ ポリー・ザトラウスキー、福留奈美、水藤新子 (2018) 「食べ物を通じた日本語教育—体験を語る評価、オノマトペ、感覚表現—」『国立国語研究所論集』国立国語研究所

商品、会社名	商品の説明文
ほっかほっか亭（ほっかほっか亭）	毎日飲んで毎日サラサラ（サントリー）
ゴキブリホイホイ（アース薬品）	アツアツカリカリの「からあげ」（味の素）

田嶋（2006）によると、日本語母語話者はオノマトペを用いた会社名からその会社がどのような商品またはサービスを提供するかを容易に想像し、またオノマトペを用いた商品の説明文からその商品がどのようなものであるかを瞬時に身体的に把握できる。また、オノマトペを用いて数ある商品や会社の中で自社についてまたは自社製品について、瞬時に他社との差別化を図り、購買欲を掻き立てる狙いも考えられる¹⁹。

3.2.4 若者と文化

山口（2007）は若者の性質について、以下のようにまとめている²⁰。

- ①仲間意識を持っている。
- ②自分の気持ちを伝えたい。
- ③感情的に伝える傾向がある。
- ④言葉で遊んでいる。
- ⑤笑いを取って仲間の気を引きたい。
- ⑥かっこよく（可愛く）振る舞って、異性の気を引きたい。
- ⑦傷つきたくない。

このすべての条件をうまく揃える言葉の1つがオノマトペなのである。西見（2016）は埼玉大学の学生たち73人に「友達としゃべっているとき、あなたはどんな擬音語・擬態語を使っていますか？」とアンケート調査を行ったところ、オノマトペが若者たちの日常会話で多用されていることがわかった²¹。

日本語話者の主観をできるだけ主観のまま表現することを好む傾向がある。特に、若者は、気楽なコミュニケーションな場では、こうした身体感覚の表現や共有、共感を好むため、オノマトペを多用し、楽しむのだと考えられる。

第4章 日本人を対象としたオノマトペの使用実態に関する調査

4.1 既存調査

ポリー・ザトラウスキー（2018）は日本人を対象としたオノマトペの使用実態に関する調査で、オノマ

¹⁹ 田嶋香織（2006）「オノマトペ(擬音語擬態語)について」『関西外国語大学留学生別科日本語教育論集』 p200-201

²⁰ 山口仲美（2007）『若者言葉に耳をすませば』講談社

²¹ 西見真衣子（2016）「秀卒業論文 オノマトペの果たす役割と効果について」『コミュニケーション文化』 p233-234

トペが試食会のコーパスでどのように用いられているのかが考察された。試食会の参加者は3種類ずつの乳製品を対照しながら最初は見た目で色や触感を描写・評価、次に匂いから特定しようとし、食べ始めてからは味覚と触覚で味、食感等を描写・評価する。相互作用の中で五感と関連させながら、評価・描写の場合は、複数のオノマトペの候補を繰り出す過程が、特定や評価の場合は、オノマトペによる根拠づけが見られた。オノマトペを含む発話の後、同意、不同意、他のオノマトペの提示等の発話連鎖や言葉（オノマトペ）探しからオノマトペのネットワーク性が明らかになった²²。オノマトペは、参加者が言語・非言語行動を通じて、変化していく食べ物に対する感覚的体験を、一瞬一瞬共有、モニターしながら精密化するのに重要な役割を果たすと考えられる。これは多くの先行研究で重視されてこなかったオノマトペと身体感覚の相互作用についての大変有意義な既存調査だと言えよう。

4.2 本調査

4.2.1 調査目的

第2章で述べたように、オノマトペの特徴は文法面の分析だけでは、十分と言えない。オノマトペを再認識する上で、日本語母語話者を対象としたオノマトペ使用実態調査を行わなければならない。特に主観をできるだけ主観のままに表現することを好む傾向がある日本の若者はどのようにオノマトペを使っているのか、これを明らかにしなければならない。そこで、本調査では、20代の日本人学生を募り、気楽な雰囲気でおノマトペの使用実態を調査した。

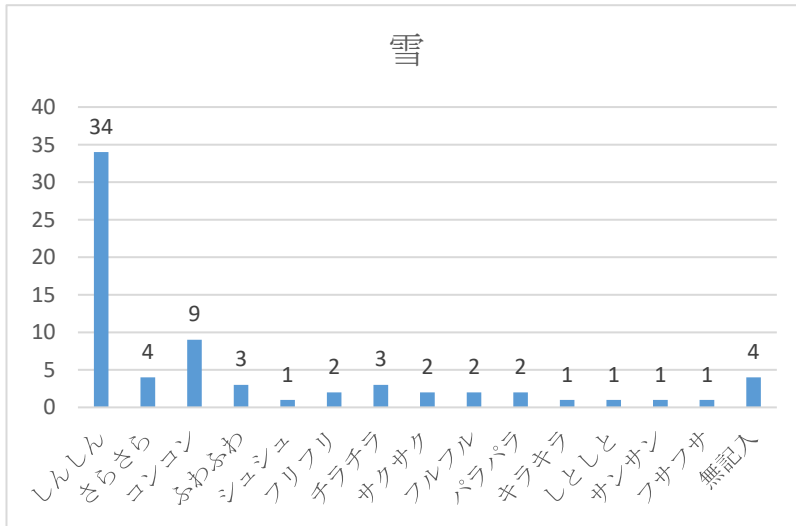
4.2.2 調査対象者

研究対象者は男女問わず、20代の創価大学の日本人学生70名。

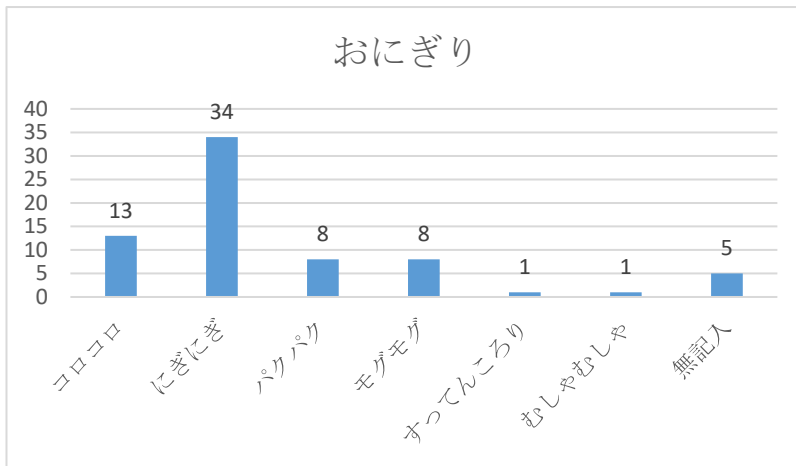
²² ボリー・ザトラウスキー（2018）「相互作用によるオノマトペの使用：乳製品の試食会を例にして」『国立国語研究所論集』国立国語研究所

4.2.3 一部調査内容と結果

(1) 「雪」といえば



(2) 「おにぎり」といえば



4.2.4 調査分析

下記は上記9つの調査結果から一部抜粋したものである。

	しん しん	さら さら	コン コン	ふわ ふわ	シュ シュ	フリ フリ	チラ チラ	サク サク	フル フル	バラ バラ	キラ キラ	しと しと	サン サン	フサ フサ	無記 入	回 答 者 数
雪	34	4	9	3	1	2	3	2	2	2	1	1	1	1	4	70
お に ぎ り	コロ コロ	にぎ にぎ	パク パク	モグ モグ	すっ てん ころ り	むしや むしや	無記入									
	13	34	8	8	1	1	5									70

9つの調査結果から抜粋し、「雪といえば」と「おにぎりといえば」この代表的な回答が出されている2つ調査結果を分析したものを下記にまとめた。

- ① 同じモノ・コトに使えるオノマトペは複数ある。
- ② バラバラの答えがあることから、各自の思い出や体験に直結していると推察される。
- ③ 新しいオノマトペを創出している例がある。
- ④ 具体的な感覚を指しており、抽象化を避ける。

第5章 中国語母語話者に対する日本語のオノマトペ教育

5.1 日本語のオノマトペ教育の現状

中国の日本語教育では、オノマトペが初級日本語の教科書における学習項目に占める比例が極めて低いというのが現状である。例として筆者が実際学習者として使っていた「みんなの日本語 初級Ⅰ（中国語版）」という初級日本語教科書を見てみると、オノマトペを学習項目として取り入れている例は見つからなかった。初級日本語の学習者は赤ちゃんのようなもので、できるだけ早くこの極めて習得しにくいオノマトペを身体感覚に訴えながら導入していくべきだと思われる。

また阿刀田・星野（1989）は日本語教育指導の場から、「音象徴語はどの言語にも見られるものであるが周知のように日本語ではその数が多く種類も複雑で独特の発達を遂げていて、外国人には理解のむずかしい語とされ、指導の場でも積極的な取り組みが後送りになる傾向がある」（p. 31）と語られている²³。

²³ 阿刀田稔子・星野和子（1989）「日本語教材としての音象徴語」『日本語教育』68 日本語教育学会 p31

こうして、オノマトペ教育を後回しにし、日本人の感覚的な考え方を体験させるチャンスを見逃しているのではないだろうか。

5.2 中国語母語話者に対する日本語のオノマトペ教育の現状

5.2 では、金（1989）と彭（2007）の2つの先行研究を元に考察し、中国語母語話者に対する日本語のオノマトペ教育の現状を明らかにする。

金（1989）²⁴

金（1989）は、「中国における日本語の教育は、私の知るかぎり一般に初級段階は、ごくふつうの単語と文法から入り、基礎段階を過ぎてから、学校により、いろいろな選択科目があり、学生は定められた必修科目のほかに、授業を受ける」（p. 96）と述べている。しかし、この定められた教授法はオノマトペには不向きである。そこで、金（1989）はオノマトペの教授法について3つの教育方法を提案している。1つ目は、特別講座あるいは選択科目を設ける。2つ目は、ゼミナールのような形で、ディスカッション、演習、実践を行う。3つ目は、文化面から理解させる。文化の面での講義を多くし、ビデオ、スライド、映画などの授業を増やして、学生により多く日本の文化を理解させると提案している。

問題点のまとめ

金（1989）のオノマトペの教育方法についての3つの提案のなか、同じく言語的要素を重んじる教授法が用いられている。

1つ目に、「擬音語・擬態語・擬情語などの類に分けて講義し、必要なものは暗記させるには問題点がある。2つ目、高学年の学習者にだけオノマトペの講義をするという提案には問題点がある。3つ目、擬音語・擬態語を分けて日中翻訳を通じて暗記させる教授法にも問題点がある。4つ目、ビデオ、スライド、映画などの授業を増やし、学生により多く日本の文化を理解させるという提案には不足している部分がある。

彭（2007）²⁵

彭（2007）は大学学部時代の日本語学習および日本語教育研究教員の経験を生かし、現場の日本語教師のため、ノンネイティブの立場から外国人学習者、特に中国語を母語とする学習者向けに有効なオノマトペの指導法を以下のように提案している。

（1）意味上、類似するオノマトペ、意味的に近いオノマトペをセットで教える。意味上の違いがあれば、丁寧に説明することも必要である。

²⁴ 金慕箴（1989）「中国における日本語の擬音語・擬態語の教育について」『日本語教育』68 日本語教育学会 p83-98

²⁵ 彭飛（2007）「ノンネイティブから見た日本語のオノマトペの特徴」『日本語学』26 明治書院 p48-53

- (2) 混同しやすいオノマトペをセットで教える。
- (3) 清濁の語をセットで教えることが効果的である。
- (4) 中国語のオノマトペと異なる意味、或いは中国語に当てはまらないオノマトペを重点的に教えることが重要である。
- (5) オノマトペを用いる文と省略を説明する。
- (6) 日常生活で使用頻度の高いオノマトペを指導する。

問題点のまとめ

以上のように、彭(2007)は自身の経験を生かし、学習者向きのオノマトペの指導方を6つ提案した。ノンネイティブの中国語母語話者の立場からの提案のため、非常に常識的な考えではあったが、まだ不十分なところがある。彭(2007)の主張は全体的にオノマトペに対しての知識面を広げようとしている。具体的には、意味の弁別と理解であるが、日本人は直観的に発話することを好み、その結果、オノマトペを適切に教えるには、知識だけでなく、体験的に習得することとなる。

つまり、日本語教育の現場でも、表現を楽しむ感覚を養うことも有効ではないかと考えられるが、現状ではこれを実行するには難しさを感じる。

5.3 なぜ難しいと考えられるのか

5.3.1 従来考えられてきた原因

5.3.1.1 中国語の「象声詞」

彭(2007)によると、中国語には日本語のように擬音語と擬態語を一括してオノマトペと呼ぶような名称がなく、中国語にあるのは擬音語に相当する「象声詞」という名称だけであると指摘している²⁶。

5.3.1.2 語数

曹(2016)は中国では主流である中国語辞書を調べ、そのなかで記載されている象声詞の語数をまとめている²⁷。日本語の擬音語は語数が多いが、中国語に「象声詞」という擬音語に相当する言葉が存在し、共通しているところに注目すれば、日本語のオノマトペを習得するには不可能ではないと考えられる。問題は、中国語には擬態語に相当する言葉がなく、その代わりに動詞を細かく使い分ける傾向があるということである。

瀬戸口(1984)によれば、中国語の動詞は日本語より具体的で細かく動作を表すことが多く、「見る」という動作に中国語では「看」(見る)、「瞪」(じろっと見る)、「盯」(まじまじ見る)などが使い分けられることができるという。このように、従来の研究では、日中のオノマトペの語数の異なりに着目し、

²⁶ 彭飛(2007)「ノンネイティブから見た日本語のオノマトペの特徴」『日本語学』26 明治書院 p53-54

²⁷ 小野正弘(2007)『日本語 オノマトペ辞典』小学館

中国人の日本語学習者は日本語のオノマトペを習得するには、多大な暗記力と集中力が必要され、習得を妨げる1つの要因として考えられてきた。

5.3.1.3 語形

日本語のオノマトペは「ABAB」型、「ABっ」型、「ABり」型、「AっBり」型と「ABん」型上記五つの語形が多く見られ、それぞれ微妙な変化により、ニュアンスが違ってくることがわかっている。瀬戸口（1984）は日中翻訳の作業を通じて多く見られた中国語の「象声詞」の語形をまとめている²⁸。

分析によると、日本語のオノマトペは仮名の微妙な差を細分化して感覚的に使い分けられているのに対し、中国語の「象声詞」は漢字を用いて大まかに捉えれば、事足りると考えられていることがわかる。さらに、中国語の「象声詞」は書き言葉が多く、中国人の日本語学習者は日本語で発話する時も、その母語の影響でオノマトペをほとんど使おうとはしないと言える。したがって、中国人の日本語学習者により早く日本語のオノマトペの独特な身体性や日本人の考え方に近づかせるために、一刻も早く初級日本語学習の段階でオノマトペを教えるべきではないかと思われる。ただし、語形の違いもまた根本的な原因ではない。

5.3.1.4 意味・用法

日本語のオノマトペと中国語の「象声詞」は文法と用法における違いがある。砂岡（1990）は、中国の「象声詞」は文法的特徴から具体的に以下の通り6つに分類することができると述べている。

- ① 独立用法
- ② 連用修飾用法
- ③ 連体修飾用法
- ④ 述語用法
- ⑤ 補語用法
- ⑥ その他特殊用法

このように、中国語の「象声詞」は場合に応じて独立される場合もあれば、述語になる場合もある。さらに、稀ではあるが目的語や主語をとることもある。また、中国語はオノマトペの語数が少なく、その原因の一つは中国語の個々の動詞が日本語のオノマトペの意味を併せ持っていることである。つまり、中国人の日本語学習者には、オノマトペを使おうとする傾向が見当たらず、意味が近い形容詞、動詞、副詞などを用いて言い替えている可能性がある。ここから、初級日本語の学習でオノマトペを使おうとする意識を持たせる必要があると考えられる。

5.3.2 筆者が思う原因

²⁸ 瀬戸口律子（1990）「擬音語・擬態語表現（日本語—中国語）について」『大東文化大学紀要 人文科学』22 大東文化大学 p1-11, 16

5.3.2.1 根本的な違い

日本語は中国語と違い、認知的で身体性のある言語である。池上・守屋（2010）²⁹は、中国語話者と日本語話者の間にとある根本的な違いが存在することを示している。すなわち、日本語話者は身体的表現をとる傾向があり、中国語話者は抽象化・対象化した表現をとる傾向があるという。また、国語話者と日本語話者はモノやコトガラの捉え方が違うこともわかった。

5.3.2.2 教科書

実際日本国内でよく使用されている教科書と中国国内でよく使われている教科書で、オノマトペの出現率とどのように扱われているのかは未だに不明であるため、5.3.2.2 では、日中でよく使われる日本語教科書の問題点を明らかにする。

曹（2016）は日本で使用されている初級用教科書4冊、中級用教科書4冊と上級用教科書2冊を調査対象とし、どのようなオノマトペがあるか、どのパターンが中心となっているか、オノマトペが初級・中級・上級でそれぞれどのような分布をしているのかを調査した。

10冊の教科書に対して調査を行った結果、初級は13語、中級は61語、上級は31語、延べ語数は合計105語であった。また、各教科書に出現した上記の105語の異なり語数は73語である。その中で、頻度が高いものから「ビックリ」「ユックリ」「サッパリ」「ソロソロ」「ペラペラ」「ガッカリ」「ニコニコ」「ウッカリ」「ハッキリ」となる。これらのオノマトペはAッBリ型とABAB型に集中している。つまり、頻度の高いオノマトペはこの2パターンに集まっていることが明らかになった。

一方、中国国内でよく使われている教科書では上記の先行研究と似たような結果がでるのか、曲（2015）³⁰は実際筆者でも使っていた中国の高等教育機関向けの教科書『新編日語』を分析の対象とし、『日本語教育のための基本語彙調査』（国立国語研究所、1964）と比較分析し、『新編日語』におけるオノマトペ教育の不足を述べている。

調査結果より、『新編日語』第1冊から第4冊に、合わせて計80語があり、オノマトペは全体的に第4冊の上級レベルに集中していることがわかる。その一方、初級の第1冊ではたった6語で国立国語研究所（1964）³¹が出した『日本語教育のための基本語彙調査』のわずか10分の1に相当する。語数が少ないことから、オノマトペ教育は中国の日本語教育システムではあまり重視されていないことがわかった。さらに、曲（2015）は①語数が少ない、以外にも『新編日語』においてオノマトペの不足を下記のように述べている。②オノマトペの種類は物、人間の状態を描写する言葉に集中し、人間の感覚や感情につながる言葉が少なかった。③オノマトペの品詞が単調。④中国語の解釈が曖昧で、微妙なニュアンスの違いに気づきにくい。

²⁹ 池上嘉彦・守屋三千代（2009）『自然な日本語を教えるために—認知言語学をふまえて—』ひつじ書房 p53

³⁰ 曲明月（2015）「新編日語の擬音語・擬態語を考察する」『言語芸術と体育研究』150

³¹ 国立国語研究所（1984）『日本語教育のための基本語彙調査』秀英出版

5.3.2.3 日本語能力試験

日本語能力試験のなか、出されるオノマトペの質問には、問題点がある。

例： ほかにの人に聞こえないように、（ ）小さい声で話す。

- A ぶつぶつ
- B ぺちやくちゃ
- C ぺらぺら
- D ひそひそ

例のように、ほかの人に聞こえないように小さい声で話すときどのようなオノマトペを使えば適切なかが考察点だったのだが、正解の「ひそひそ」は明らかに他の答えとのジャンルが違い、とてもいい問題構成とは思えない。むしろ、「ひそひそ」と「こそこそ」を意識しながら、問題を出されたほうがいいのではないだろうか。

5.3.2.4 対訳辞書

オノマトペは、人が何かを見たり、感じたりした時に、他者にその身体感覚をリアルに表現して伝えるものであり、さらにそれを他者の身体感覚を刺激、喚起するものであると考えられる。その意味で、オノマトペは辞書的な分析によって「意味」を十分に伝えることは、本来は難しい。外国語話者、特に、モノやコトガラを客観的に分析することを好む中国語話者にとっては、極めて理解が難しい。モノやコトガラを客観的に分析することを好むからこそ、中国人は辞書のような一般化された客観的な解釈を暗記しがちである。これはオノマトペのような非常に主観的、身体的な言葉を学習するには致命的である。それに、市販のオノマトペ日中対訳辞書にも様々な不足がある。

徐一平（1994）³²は著作『日本語研究』のなか、商務印書館で出版された『日漢辞典』と遼寧人民出版社で出版された『新日漢辞典』を対象とし、オノマトペの中国語の解釈について分析しており、その結果、以下のように指摘している。①オノマトペへの解釈が不足している。②中国語にはオノマトペの擬音擬声語にあたる「象声詞」しかないため、擬音擬声語と擬態語の判別が曖昧。③意味の違うオノマトペをまとめて並べている。④プラスとマイナスの意味が含まれているオノマトペを間違えた解釈で説明している。

また、郭（1994）³³の『日中擬音語・擬態語辞典』においても、中国語の注釈が不足している部分があると指摘している。つまり、不足している解釈に困惑され、変なオノマトペを使っていることに気づかず、そのまま会話で使ってしまったがために、中国人の日本語学習者にとって、オノマトペはいつも最大の難関となるわけである。

³² 徐一平（1994）『日本語研究』北京人民教育出版社

³³ 郭華江（1994）『日中擬音語・擬態語辞典』東方書店

5.3.2.5 まとめ

原因をまとめると、以下のようになる。

- ① 日中のオノマトペ対照研究は単なる特徴や規則性(属性)の比較にとどまり、深層的な違い(身体性、共有、臨場感)が見当たらない
- ② オノマトペの特徴を軽視する傾向が見られ、形態、文法、意味だけではなく、大事なものはその場で共感を喚起することである。
- ③ 言語による概念と説明に頼る。

果たして、モノやコトガラの捉え方において日中両国の話者の間には本当に似たようなところがないのか、オノマトペと象声詞の間には差異だらけで本当に似たようなところがないのか、中国語にオノマトペを習得させるには本当に方法がないのか、新たな課題が見えてきた。

5.3.3 中国人の日本語教師を対象としたオノマトペ教育に関するアンケート調査

既存調査

曹 (2016)

荻阪 (2001)³⁴によると、オノマトペの「イメージ喚起度がきわめて高い」と考えられ、荻阪 (1986) が多数のオノマトペを日本人の大学生に与え、文を使って再認記憶について調べ、その結果、オノマトペが再認記憶を促進することを明らかにした³⁵。

そこで、曹 (2016) は日本語専攻の中国人大学生はオノマトペによってイメージを喚起するか、喚起したイメージが日本語母語話者と同じであるか、また、関連性のある複数のオノマトペのニュアンスの違いを理解できるかなどについて、2つの調査を実施した。1つは関連性のない、音声・状態を表す「ゴロゴロ」と状態を表す「バラバラ」を用いて調査を行い、その結果を母語話者との比較によって明らかにした。もう1つは「恋愛」に関連する人間の心理や感覚・感情を表す擬態・擬情オノマトペ12語を用いて調査を行い、学習者のオノマトペへのイメージ喚起を考察した。以上の2つの調査で明らかのように、学習者は個別のオノマトペと関連性のあるオノマトペに対するイメージ喚起が母語話者とおおむね異なっていることがわかった。つまり、学習者は母語話者のようにはオノマトペが理解できていなかったことである。

³⁴ 荻阪直行 (2001) 「ことばと感覚—擬音語・擬態語からみるクオリアの探究 (特集 楽しいオノマトペの世界—擬音語・擬態語の質感を味わう)」『言語』大修館書店

³⁵ 荻阪直行 (1986) 「擬音語・擬態語の感覚尺度-1-ことばの精神物理学—連想順位表に基づく分析」『追手門学院大学文学部紀要』追手門学院大学文学部

研究目的

本アンケート調査は中国人の日本語教師はオノマトペへの理解はどれくらいなのか、中国語の「象声詞」への理解はどれくらいなのか、またオノマトペ教育にどれほど力を入れているのかを明らかにすることを目的とする。

研究対象

研究対象は、中国語を母語とする日本語教師になる。（年齢、性別、出身地、日本語教育歴、高等教育機関に所属しているかどうか問わず）今回では計 14 名の日本語教師にアンケート調査を行った。

調査内容

1. 日本語教育歴を教えてください。

_____年_____月

2. これまでに教えていて難しいと思ったオノマトペを 3 つ挙げてください。（教えたことがなければ無記入でお願いします）

①_____ ②_____ ③_____

3. 次のオノマトペについて、それぞれにぴったり合う食べ物は何ですか？（複数記入可・食べ物のジャンルは問わず）

① 「アッサリ」 _____ 「サッパリ」 _____

② 「パリパリ」 _____ 「サクサク」 _____

③ 「モチリ」 _____ 「モチモチ」 _____

4. 次の中国語の象声詞にあたる日本語のオノマトペは何だと思いますか？

①咣当 [guāng dāng] _____

②嘎嘣 [gā bēng] _____

③凉飕飕[liáng sōu sōu] _____

5. 自分の方言、および自分の方言で日本語のオノマトペにあたる言葉があったら教えてください。（複数記入可・なければ方言の種類だけ記入してください）

方言の種類： _____

オノマトペにあたる言葉： _____

6. （任意記入）日本語のオノマトペ教育に関するご意見。

5.4 日本語教育への導入のあり方

調査結果分析①

オノマトペに苦戦しているに見えるが、実は特に「擬態語」に苦しんでいる。

「これまでに教えていて難しいと思ったオノマトペを3つ挙げてください」という質問に対し、中国人の教師はほとんど「擬態語」を挙げている。その傾向は日本語教育歴が長ければ長いほど顕著である。その一つの原因として、中国語の「象声詞」の影響が大きいと考えられる。5.4.1.1で述べたように、中国語の「象声詞」は日本語の「擬声語・擬音語」に相当するものとされており、日本語の「擬態語」に相当するものは、中国語の辞典にも、日中対訳辞書にも見当たらない。日本語の教育歴の長い教師は自分自身なりの教授法があり、また長く無意識に母語に影響され、日本語の「擬態語」に触れる際に母語の思考で考えがちである。

したがって、オノマトペ教育を行う際、まずは教師が自身の思考の活性化を果たさないといけない。無理に日本人になりすます必要はないが、日本人の文化、思考、特に若者たちの考えに近づくべきである。

調査結果分析②

オノマトペを学生に習得させたいものの、方向が間違っている。

「日本語のオノマトペ教育に関するご意見を述べてください。」という質問に対し、中国人の教師は「宮沢賢治の読本を活用したらどうですか？」や「類別で指導できる教材があると嬉しいです。」、「学生に説明するのが難しいと思います。」などの回答をされた。しかし、これらの回答から見られるのは、中国人の教師はまだ従来の観点でオノマトペを属性表現として扱っていることであつた。

オノマトペは話者自身の実体験や思い出に直結しているもので、文法的な分類はオノマトペを一般化してしまい、持ち味の微妙なニュアンスを消してしまう恐れがある。

したがって、オノマトペ教育を行う際、辞書や教科書はあくまでも補助用にしておくべきで、大事なものは、授業で気楽な場を作り、説明をせず、オノマトペを周りの人と共有しあい、体験し、楽しむことである。

調査結果分析③

オノマトペを使おうとしない教師もいれば、上手に使っているのに気づかない教師もいる。

その根拠となるのは、第4問「凉飕飕[liáng sōu sōu]にあたる日本語のオノマトペは何だと思いますか？」という質問に対する回答である。「凉飕飕」は中国語ではただ形容詞として扱われているが、日本語に訳すれば「スースー」という擬音語から発展してきた擬態語になる。オノマトペの訳を問われる際に、一部の教師は答えるのに戸惑うなか、多くの教師、特に南方言を母語とする教師は楽々と答えられるようである。

オノマトペを教える際、よく用いられる方法の1つは日中オノマトペの差異における比較である。しかし、それは実は一面的な捉え方で、モノ・コトガラを捉える点でも似たようなことがあるはずであり、主に中国語の方言に見られる。オノマトペを教える際は、方言のなかで見られる日本語に近いことを示すのも大事だと考える。

Ⅲ 結論

第6章 まとめと今後の課題

6.1 まとめ

以上のように、本研究は6章に分かれ、オノマトペ教育にヒントを与えることを目的とし、展開してきた。

序論は第1章と第2章に分かれ、オノマトペに関する先行研究を述べてきた。そこから、オノマトペの統語的特徴や意味的特徴という言語学的な研究が数多く存在しているのに対し、オノマトペの身体的な特徴を深く分析する研究がまだ不足しているということがわかった。また、先行研究は日本語母語話者が、なにをどのようにオノマトペを活用しているかを具体的に記述しているものがなかった。

本論は第3章、第4章と第5章から構成される。第3章は、先行研究の不足しているところをふまえ、日本語のオノマトペの使用実態を教育面と日常生活面に分け、具体的な実例を挙げながら分析した。第4章では、より直観的に日本人のオノマトペの使用実態に関するデータを示すため、既存の調査研究に基づいて新たな使用実態調査を行った。そこから、①同じモノ・コトに使えるオノマトペは複数ある。②バラバラの答えがあることから、各自の思い出や体験に直結している。③新しいオノマトペを創出している④具体的な感覚を指しており、抽象化を避けると、4つのポイントをまとめ、オノマトペの再認識を果たした。第5章では、中国語母語話者に対する日本語のオノマトペ教育の現状に基づいて習得困難の原因を明らかにした。そして、中国語母語話者に対する日本語のオノマトペ教育の可能性という問題を踏まえ、中国人の日本語教師にアンケート調査を行い、日本語教育への導入のあり方について考察してきた。

6.2 今後の課題

オノマトペは、人が何かを見たり、感じたりした時に、他者にその身体感覚をリアルに表現して伝えるものであり、さらにそれを他者の身体感覚を刺激、喚起するものであると考えられる。その意味で、オノマトペは辞書的な分析によって「意味」を十分に伝えることは、本来は難しい。外国語話者、特に、モノやコトガラを客観的に分析することを好む中国語話者にとっては、極めて理解が難しい。

一方、日本語話者の主観をできるだけ主観のまま表現することを好む傾向がある。特に、若者は、気楽なコミュニケーションの場では、こうした身体感覚の表現や共有、共感を好むため、オノマトペを多用し、楽しむのだと考えられる。

オノマトペが次々と日常に溢れ進化していく大きな要因の1つが、若者の存在にあると言われている。主に若者文化に広がる漫画、SNS などの影響から、オノマトペの効果的な使い方を手に入れる。そして若者は自分たちの「感覚的に気持ちを伝えたい」という思いからオノマトペを創出し、使用するようになるのである。

例えば、正式に辞書には記載されていないが、中国で流行った「囧」（困り顔）という漢字や日本から世界へ広まった「orz」（跪き頭を垂れる姿）、また若者がよく発する「やべー」「いてー」も筆者にとっ

てはオノマトペのように見える。

今後の課題として、本研究では深く言及できなかった若者文化とオノマトペの関係性、および若者などのようにオノマトペの素人から達人になっていくのか、そのプロセスを分析していきたい。

参考文献

- (1) 浅野鶴子・金田一春彦(1978)『擬音語・擬態語辞典』角川書店
- (2) 浅野鶴子・飛田良文(2002)『現代擬音語擬態語用法辞典』東京出版社
- (3) 阿刀田稔子・星野和子(1989)「日本語教材としての音象徴語」『日本語教育』68
日本語教育学会
- (4) 池上嘉彦・守屋三千代(2009)『自然な日本語を教えるために—認知言語学をふまえて—』ひつじ書房
- (5) 石黒圭(2008)「オノマトペとは(特集 おのまとぺ)」『國文學：解釈と教材の研究』學燈社
- (6) 苧阪直行(1986)「擬音語・擬態語の感覚尺度-1-ことばの精神物理学—連想順位表に基づく分析」『追手門学院大学文学部紀要』追手門学院大学文学部
- (7) 苧阪直行(2001)「ことばと感覚—擬音語・擬態語からみるクオリアの探究(特集 楽しいオノマトペの世界—擬音語・擬態語の質感を味わう)」『言語』大修館書店
- (8) 岡谷秀夫(2015)「小学校国語教科書に見るオノマトペと日本語教育」『オノマトペの利活用』人工知能学会論文誌
- (9) 小野正弘(2007)『日本語オノマトペ辞典』小学館
- (10) 小野正弘(2007)『擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典』小学館
- (11) 小野正弘(2009)『オノマトペがあるから日本語は楽しい：擬音語・擬態語の豊かな世界』平凡社
- (12) 金慕箴(1989)「中国における日本語の擬音語・擬態語の教育について」『日本語教育』68 日本語教育学会
- (13) 曲明月(2015)「新編日語の擬音語・擬態語を考察する」『言語芸術と体育研究』150
- (14) 国立国語研究所(1984)『日本語教育のための基本語彙調査』秀英出版
- (15) 郭華江(1994)『日中擬音語・擬態語辞典』東方書店
- (16) 徐一平(1994)『日本語研究』北京人民教育出版社
- (17) 瀬戸口律子(1990)「擬音語・擬態語表現(日本語—中国語)について」『大東文化大学紀要 人文科学』22 大東文化大学
- (18) 曹金波(2016)『日本語教育におけるオノマトペの研究—その学習内容と指導プロセスの構築を中心に—』城西国際大学大学院人文科学研究科
- (19) 谷川俊太郎・和田誠(2006)『すき—13 谷川俊太郎詩集』理論社
- (20) 武田道子(2015)「幼児の生活に見られるオノマトペ—音楽的意義と活用への一考察」

『常葉大学保育学部紀要』

- (21) 田嶋香織 (2006) 「オノマトペ(擬音語擬態語)について」『関西外国語大学留学生別科日本語教育論集』
- (22) 田守育啓・ローレンス スコウラップ (1999) 『オノマトペー形態と意味』くろしお出版
- (23) 中石ゆうこ・佐治伸郎・今井むつみ・酒井弘 (2011) 「中国語を母語とする学習者は日本語のオノマトペをどの程度使用できるのか—アニメーションを用いた産出実験を中心として—」『中国語話者のための日本語教育研究』2
- (24) 仲村哲明 (2012) 『オノマトペが属する五感の推定』人工知能学会論文誌
- (25) 夏目房之介 (2013) 「マンガにおけるオノマトペ」『オノマトペ研究の射程—近づく音と意味』ひつじ書房
- (26) 西見真衣子 (2016) 「秀卒業論文 オノマトペの果たす役割と効果について」『コミュニケーション文化』
- (27) 浜野祥子 (2014) 『日本語のオノマトペ 音象徴と構造』くろしお出版
- (28) 日向茂男・笹目実 (1999) 『語形から見た擬音語・擬態語 2』東京学芸大学紀要第2部門人文科学 50
- (29) 深田智 (2013) 「絵本の中のオノマトペ」『オノマトペ研究の射程—近づく音と意味』ひつじ書房
- (30) 彭飛 (2007) 「ノンネイティブから見た日本語のオノマトペの特徴」『日本語学』26 明治書院
- (31) ポリー・ザトラウスキー (2018) 「相互作用によるオノマトペの使用：乳製品の試食会を例にして」『国立国語研究所論集』国立国語研究所
- (32) ポリー・ザトラウスキー, 福留奈美, 水藤新子 (2018) 「食べ物を通じた日本語教育—体験を語る評価、オノマトペ、感覚表現—」『国立国語研究所論集』国立国語研究所
- (33) 松本大洋 (2002) 『ピンポン/B-4』小学館
- (34) 三上京子 (2007). 「日本語教材とオノマトペ」『日本語学』
- (35) 山口仲美 (2003) 『暮らしのことば 擬音・擬態語辞典』講談社
- (36) 山口仲美・佐藤有紀 (2006) 『「擬声語・擬態語」使い分け帳』山海堂
- (37) 山口仲美 (2007) 『若者言葉に耳をすませば』講談社